

## 2. 神戸シルバー大学院(SGS)

### － 誕生と草創期 －

#### 1. 発足前の経緯

神戸市シルバーカレッジ・生活環境7期生の最終3学年にグループ学習研究が「社会環境」「自然環境」「食環境」の3部門に大別され、それぞれ部門別にサポーターの先生の助言・指導を受けながら複数のグループに分かれて研究・調査活動を行っていた。

平成15年(2003年)の2月、大ホールで各グループの研究発表が行われ、その前後に保田茂神戸大学教授の指導下にあった「食環境グループ」内で、折角これらの共同研究を通じて、保田先生の「食環境の安全・安心」に対する献身的で且つ長期的な取り組みに感動し、その「次世代 次々世代への思い」に共鳴した仲間が、『卒業と同時にばらばらになるのは寂しいので、出来ればこれからも続けて先生の指導下で一緒に勉強や活動したいね』との話が交わされていた。

「食環境研究グループ」の取りまとめ役をしていた 納 利春さんが、保田先生と同じ神戸大学卒の先輩であるところから、こうしたニーズを受け止めていただき、全員を代表して「卒業後も引き続きわれわれの指導をしていただけませんか?」とお願いしていただいた。

われわれにとってラッキーなことに、この年の3月に保田先生が神戸大学農学部教授をご退官になり名誉教授になられるタイミングであったので、「4月から退官して多少時間に余裕ができるので、皆さんのご要望が多ければ、続けて学習するように考えましょう」というありがたい回答があった。

それから、納さんをはじめ、長年 保田先生と食環境活動をともにされた高月営子さん(グループ研究で「日本の大豆とみそ」をテーマにした「自然人倶楽部」6名のチーム代表)や、同じく食環境グループのリーダーの一人であった宇佐見 進さんたちとともに、卒業後の保田学校への参加メンバーを積極的に勧誘した。

その結果、生活環境7期生36名、6期生1名計37名が参加することになった。

3月中に新しい学習団体の基本的な問題を、保田先生を中心に話し合いが行われ、その結果、下記のこと内定した。

#### ① 学習団体名は、「神戸シルバー・グラデュエート・スクール(略称SGS)」とする。

(これは保田先生の半分ユーモア交じりの提案で、「カレッジを卒業し、引き続き学習する場所は、普通は大学院(グラデュエート・スクール)です。」とのことで、われわれ学生側は、「大学院生になることは気恥ずかしい思い半分とともに誇らしい気持ち半分もあって、全員がこの校名が面白いと反対なく決定した。)

【校名効果余話】その後の対外活動で、この「神戸シルバー大学院」という校名のおかげで、生産者団体等訪問時の電話での事前折衝時点では、「高度な学術的研究団体」が訪問してくれると先方から勘違いされ、詳細な資料も準備され、訪問地区のJAや普及員の責任者・担当者も同席してくれるなど、「保田先生の指導下にある大学院生」を迎える真剣な気構えが感じられた。

訪問時にわれわれが高齢のじいちゃん・ばあちゃんばかりだと知ると、多少戸惑った変な顔をされる場合もあったが、われわれが真剣な態度でQ&Aするうちに、次第に相互信頼感が高まって違和感がなくなってくるのが感じられた。「大学院」と名づけてよかったと思っている。

② 団体の法的な地位は、制約が少ない「任意団体」とする。

(発足後、NPO 法人資格取得も検討したが、いろいろな条件・制約があるのであきらめた。)

③ 学習頻度は、第1水曜日、第3水曜日の月2回とする。

④ 学習場所は、固定的ではなく、「貸し会議室」を利用する。

(月2回の学習頻度上)

⑤ 入学金2,500円、月会費2,500円とし、講師料や部屋代その他事務経費に充当する。

⑥ 保田先生を学長に願います。レクチャーや学習指導をお願いする。

⑦ 理事会主体にこの学習団体を運営する。

在籍者全員を理事とし、理事長・副理事長ならびに若干名の常任理事を設ける。

(理事長に納利春さん、副理事長に高月営子さんを事前内定。)

## 2. 開校ならびに第1期生入学式

① 時期 平成15年(2003年)4月9日

② 場所 阪急駅近くの「財団法人 神戸学生青年センター」ホール

③ 入学生 37名

④ 式次第 10時より開始、保田学長の冒頭挨拶、飛田館長祝辞

理事長に納氏、副理事長に高月さんを全員拍手で正式選出

正午～昼食会(センターの女性メンバーさんたちの手作り)

常任理事・会計選出と担当役割の内定

常任理事:(総務担当)宇佐見進、(企画担当)嶋谷 徹

会計 木谷貞子 会計監査 三好光志、西尾孟三

## 3. 本格的学習開始

4月23日 「神戸学生青年センター」13～15時 保田学長講義「食料と環境」

5月 7日 10時～ 今後のSGSの方向性を意見交換

① 会則案の検討

② 学習方法の検討 第1水曜日 : 保田学長の講義、

第3水曜日 : メンバーの研究発表または外部講師の講義

(各人がそれぞれ自分の研究または関心事項を発表する。)

5月21日 13時～ 保田学長講義 「経済論」

6月 4日 10時～ 今後の学習方法についての全員意見交換会

「まじめな学習指向派」と「楽しく集って遊ぶ指向派」が激論。

(入学への勧誘の仕方に問題があったことが理由か?)

6月18日 13時～ 学長講義

研究発表は「地球環境」に関することであれば、どんなテーマでも可とする。

山口さんよりグループ研究提案あり。

学長・・・「個人発表」「グループ発表」どちらでも可とする。

8月中 夏季休暇

(1学期中に退学者続出・・・37名が20名に減少)

[理由] 体調不良、家族介護、農漁村問題に興味なし

研究発表はカレッジだけで十分・・・もうしたくない等

- 9月 3日 10時～ 嶋谷・平石さん共同発表「都市ごみの堆肥化で農地を健康に」  
宇佐見さん個人発表「体内時計医学について」
- 9月17日 13時～ 保田学長講義「食の安全・安心の確保と農業改革再編」
- 10月 1日 10時～ 松本 恒司さん個人研究発表「しあわせの村周辺のキノコだより」  
吉田 忠史さん個人研究発表「アイガモ農法について」
- 10月15日 13時～ 全員討議 ①会則の改定と常任理事選任の件  
②個人研究についての意見交換
- 11月 5日 10時～ 保田学長講義「耕地利用率の動向」
- 11月26日 13時～ 高月さん代表発表「環境は食生活から～日本の大豆と味噌」  
(対外発表の予行演習として自然人倶楽部を代表して発表)  
山口 俊雄さん個人発表「健康と音楽」
- 12月 3日 10時～正午 保田学長講義「農村と都市の交流・二十一世紀の展望」  
今後の学習方法について全員にアンケートした結果説明・・・  
①「個人研究」に加え「グループ研究」も可を大多数が希望  
②「共通テーマ」に沿った分科会方式はどうか？  
少数なるも反対があり、実行決議にはならず。
- 12月17日 学長講義「農村と都市との交流・・・日本経済の行方、二十一世紀の方向」

平成16年(2004年)

- 1月 7日 10時～正午 学長講義 「農村と都市の交流・・・第3回目」
- 1月21日 西尾 孟三、三好 光志 発表 「いわゆるグリーンエネルギーについて」  
納、宇佐美、藤本、藪内 発表 「電磁波について」
- 2月13日 学長講義 ①高病原性トリウイルスについてのコメント  
②農村との交流の必要性
- 3月 3日 学長講義 ①高病原性トリウイルスについてのコメント・・・養鶏の実態  
②市場経済の光と影・・・生命の委託原理の重要性
- 3月 17日 納、藤本、藪内 発表 「WTOと日本の農業」
- 1月～3月までシルバーカレッジ8期生のSGS入学を勧誘し、13名入学

#### 4. 平成16年(2004年)度、第2期生 13名入学

2003年度中には、異論があつてなかなか発足しなかったグループ学習が、新入学の第2期生の積極的な賛同を得て、下記方式で発足した。

SGS 全員の共同意識を保つために「共同基本テーマ」を設定し、その大テーマに関連して、いろいろな切り口から分科会的にアプローチ研究する。

保田先生にお願いしこの共通テーマを下記のように決定した。

第1回共通基本テーマ 「兵庫県における都市・農漁村の交流の現状と展望」

切り口別に下記の4分科会に分かれる。

第1分科会・・・農漁村の文化・伝統・歴史・自然環境からの諸研究

第2分科会・・・中テーマとして「地産地消、安全・安心食材」を研究

第1ステージ（H16）「兵庫県内の道の駅調査」

第2ステージ（H17）

第1チーム 「土の研究」

第2チーム 「直売所購入ルート調査」

第3チーム 「ひょうご安心ブランド農作物調査」

第3分科会・・・食育に関する研究

第4分科会・・・県下農村（波賀町小野ふれあい農園）との交流・支援活動

一方、個人研究の発表も歓迎し、この後、グループ学習も個人研究も発表件数が大変活発となり、学内発表のみではもったいないものが多く、優秀研究を選抜して「対外発表会」を開催するようになり、現在の「定例的な対外発表会」（12月）につながるようになった。

1期生 嶋谷 徹、高月 営子